

イカロスのつばさ

イカロスのつばさ

(ギリシャの神話)

昔、ギリシャのクレタ島に、ダイダロスという、すぐれた発明家がありました。ダイダロスは、王の命令で、迷宮という、一度入ったら出られない建物を造りました。ところが、王のいかりを買い、むすこのイカロスとともに、その迷宮の塔に閉じこめられてしまいました。ダイダロスは、島からにげ出す方法を考えました。海も陸も、王の兵が見張っています。残っているのは、空だけです。ダイダロスは、鳥の羽を集め、ろうで固めて、二人分の大きなつばさを作りました。

飛び立つ前に、ダイダロスは、むすこに言い聞かせました。「低く飛びすぎると、海のしぶきで羽がぬれて重くなる。高く飛びすぎると、太陽の熱で、ろうがとけてしまう。必ず、わたしの後について、真ん中の高さを飛ぶのだぞ。」

二人は、無事に空へ飛び立ちました。ところが、空を飛ぶうちに、イカロスは楽しくてたまらなくなり、父の言いつけをわすれて、どんどん高く飛んでいきました。すると、太陽の熱で、つばさのろうがとけ、羽がばらばらにぬけ落ちてしまいました。イカロスは、そのまま海へ落ちていったと伝えられています。

1

ダイダロスは、何で羽を固めて、つばさを作りましたか。



2

ダイダロスが、空からにげることにしたのはどうしてですか。

--

3

ダイダロスは、むすこにどの高さを飛ぶように言いましたか。

ア できるだけ高く
イ できるだけ低く
ウ 真ん中の高さ

4

イカロスが海へ落ちてしまったのは、どうしてですか。

--